

ごあいさつ



理事長 小野 裕樹

みなさんお元気ですか。

翼の会理事長の小野です。本業は弁護士です。

高次脳機能障がいとは、翼の会の前身「ぶらむ」の設立時からのお付き合いですから、もう25年になります。弁護士として仕事をしてきた期間の3分の2にわたって高次脳機能障がいに関わってきました。

国の支援事業が始まった25年前（「ぶらむ」ができたころ）、高次脳機能障がいなんて言葉は、ほとんどの人は見たことも聞いたこともありませんでした。弁護士会で勉強会を開いたときも、「高次脳って脳のどの辺にあるんですか」という質問を受けたことがあるほどです。医師でさえ、よく理解していないことが少なくありませんでした（これは、いま私たちが使っている意味での高次脳機能障がいという言葉は支援事業で新たに定義された言葉であり、もともと医学用語としてはなかったことも原因です）。みなさんがご存じのとおり、「ぶらむ」を初め、全国に家族会が作られたのも、「どこへいってもわかってもらえない」、「どこに相談したらいいのかわからない」、「支援体制を作ってほしい」という当事者・家族の切実な悩みがあったからです。

いまでは、高次脳機能障がいという言葉も、少しずつ社会から認知されるようになってきました（いまだに「それ何？」と聞かれることはしょっちゅうですが）。行政もさまざまな取り組みをしており、地域活動支援センター「翼」も福岡市の補助金で運営されています。高次脳機能障がいの実態を社会や行政に広く知らせ、医療や福祉の各間に落ち込んでいる当事者や家族を救済するという家族会の取り組みは、少しずつ実を結びつつあります。

とはいえ、まだまだ社会の理解は十分ではありません。家庭で、職場で、学校で、高次脳機能障がいの理解と対応のしかたが共有され、支援体制が用意されていることが、当事者や家族がより良い人生を送るためには必要です。地域活動支援センター「翼」でも、いまだに「こんな場所があるなんて誰も教えてくれなかった。もっと早く知りたかった。」という声を聞くことがあります。まだまだ、世の中には必要な支援が届いていない当事者や家族が大勢おられるはずです。私たちの力は小さなものかもしれませんが、そのような人たちが一人でも減るように、一人でも多くの当事者や家族が救われるように、これからも力を尽くしていきたいと思います。

会員・利用者みなさんは、それぞれ自分らしく、翼の会と「翼」の活動に積極的に取り組んでいます。職員さんたちも、当事者とご家族を支えるために身体的に頑張っています。外部講師の先生方にも、会員・利用者みなさんに寄り添い、行き届いた専門的なご指導をいただいています。翼の会と「翼」は、当事者と家族みなさんの頑張りと切実な願いにこたえるために、これからもその取り組みを充実させていきたいと思っています。ぜひ、引き続きみなさまの力をお貸しください。

今年度も、翼の会と地話「翼」をよろしくお願いします。